

教科に関する調査の設問別の分析結果

平成 20 年度全国学力・学習状況調査 国語 A 2 一(選択)

【出題の趣旨】

文学的な文章を読んで、文章の展開に即して内容を読み取れているかどうかをみる。

【学習指導要領の内容・領域】

- C 読むこと(第一学年)
- イ 文章の展開に即して内容をとらえ、目的や必要に応じて要約すること。

線部「A」のたとえ話」とありますが、江乙は、だれのことを「虎」に、だれのことを「狐」にたとえたのですか。次の1〜4の中から、最も適切なものをそれぞれ一つ選びなさい。

《正答》	3	1
「狐」	王様	宰相
「虎」	4	2
1	宰相	江乙
3	王様	家臣

	正答率【虎】	正答率【狐】
本校 (%)	62.5	54.2
広島県 (%)	65.1	60.0
全国 (%)	64.3	58.9

解答類型	1	2	3	4	9	無解答
本校の割合【虎】 (%)	25.0	8.3	62.5	4.2	0.0	0.0
解答類型	1	2	3	4	9	無解答
本校の場合【狐】 (%)	54.2	12.5	33.3	0.0	0.0	0.0

この問題を解くために必要な力

- 文学的な文章を読み、登場人物の設定、登場人物同士の関係を把握する力
- 文章の展開に即して、内容を正確に読み取る力

誤答分析

- 「虎」「狐」を「1 宰相」「3 王様」と解答した本校の生徒の割合は共に 80%後半である。宰相と王様が重要な人物であることはとらえているが、その相関を把握していないと考えられる。
- 「2 江乙」を選択している生徒が共に1割前後いる。これは、王様が家臣たちに「わたしよりも宰相をおそれているといううわさを聞いているが、本当なのか。」と尋ねたところに、魏の国の江乙がたとえ話を使って答えるという役割を正確に理解できていないためだと考えられる。

様式例 2

調査結果の分析をふまえた指導改善のポイント 平成 20 年度全国学力・学習状況調査 国語 A 2 ー(選択)

【単元名】 古典の世界に親しむ

調査結果からみる課題

【課題となる力】

- 文学的な文章を読み、登場人物の設定、登場人物同士の関係を把握する力
- 文章の展開に即して、内容を正確に読み取る力

【指導上の課題】

- 「全国学力・学習状況調査」は3年生を対象としている。音読・朗読活動をさせていく中で、原文と現代語訳を使って内容をおさえる学習が学年を隔てて継続できていないため、内容を正確に読み取る力が定着していない。
- 登場人物の設定、登場人物同士の関係を把握するという文学的な文章を読むにあたっての、基本的な事項が定着していない。

指導改善のポイント

文章の読解を目的に応じて行う。

【指導の工夫】

- ① 音読や暗唱といった言語活動を充実させ、古典に親しむ態度を養いつつ、作品の内容をとらえる。
 - ② 古典の原文で古文だけでなく、現代語訳を用いて作品理解に役立てる。
- 内容を「一文要約」させることによって、登場人物の設定、登場人物同士の関係を把握する。
(心情を直接表す言葉・台詞・動作や表情など)

原文の音読を繰り返し行い、古典特有のリズムを味わう。

- 歴史的仮名遣いに注意して、正確に音読する。
- 古典特有のリズムに乗ってすらすら音読する。

原文と現代語訳を参照しながら内容を把握し、「一文要約」をさせることで、より深い理解をさせる。

- 古語の意味をおさえつつ、現代語訳の内容を理解する。
- 登場人物の設定、関係を丁寧に把握した上で、「一文要約」をする。
- 故事から生まれた意味について理解する。

《参考文献》

「一文要約」は、石原千秋による『小説入門としての高校入試国語』（NHK ブックス、2002年4月）に拠る。一文要約とは「○○が○○する話」「○○が○○になる話」という形でまとめさせることで、内容把

握をさせる学習活動のことである。

様式例 3

中学校第 1 学年 国語科学習指導案
単元名：古典の世界に親しむ

- 1 日 時 平成 21 年 10 月 26 日 (月) 5 校時
2 学 級 第 1 学年 A 組 (1 A 教室) 35 人 (男子 17 人 女子 18 人)

単元について

本単元は、新学習指導要領の以下の領域・指導事項を受けて設定した。

〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕

■指導事項

(ア) 文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読して、古典特有のリズムを味わいながら、古典の世界に触れること。

(イ) 古典には様々な種類の作品があることを知ること。

C 読むこと (第 1 学年)

■指導事項

ウ 場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること。《文章の解釈》

■言語活動例

ア 様々な種類の文章を音読したり朗読したりすること。

「わたしたちと古典—かぐや姫の物語」では、月に対する思いや考えが現代とは随分違っていたことや、今も昔も変わらぬ人間の真実の姿が描かれており、今と昔の共通点、相違点を気づくことができる。そこから自分たちの生き方、在り方について考えることができ、古典に感動し、親しむことができる。

故事成語は、日本の古典を形成する柱の一つであり、奈良・平安の時代から日本文化の形成に大きな役割を与えてきた。ことに学問・教養の面で精神的な支柱であり、現代でも日常生活において名言・名句・故事成語など、中国古典に由来するものが多数認められる。

故事成語は今も生活の中に使われていることばである。昔の出来事や基になった事柄(故事)を知ること、ことばのもつ魅力に触れることができるだろう。また、現代に生きるものの見方や考え方を理解し表現することで、会話や文章を知的で豊かにすることができる。

その一方で、本来の意味とは異なる使われ方をされていることばも現代では存在する。先日の「08 年度国語に関する世論調査」(文化庁)でも「破天荒」の誤用などの調査結果が発表された。しかし、近い将来、誤用とされている使われ方が国語辞典に掲載される日がくるかもしれない。実際に、使用されていく中で、本来の意味から派生したことばも多数存在する。

教科書に掲載されている「矛盾」では、あらかじめ書き下し文に改められた原文を音読し、現代語訳を通じて、語源と意味を理解する。今回取り上げる「朝三暮四」では、1つの語源から3つの意味が生まれたことを確認し、故事成語に興味や関心を深めることができると考える。最終的には、本校の研究主題でもある「家庭学習とのリンク」として、辞書や国語便覧を用いて、さまざまな故事成語の意味と用法を探究し、日常会話や文章で活用させる姿勢を身につけさせる必要がある。

最後に、漢字の成り立ちを学習する。故事成語で出てきた「矛」や「盾」は象形文字であることを紹介しつつ、漢字の成り立ちについて関心を持たせ、理解させる。また、「読むこと」と関連した指導を行うことで、学びの目的を明確にさせることができる。

調査結果からみる課題

古典の世界に「虎」の新たな興味・関心を喚起させることができると考えられる。

〈レディネステストの誤答分析から〉

○ 平成 20 年度全国学力・学習状況調査 国語 A 2 ー

(1) 問題の概要

文学的な文章を読み、登場人物同士の関係を選択する

(2) 出題の趣旨

○ 文学的な文章を読み、登場人物の設定、登場人物同士の関係を把握する力

○ 文章の展開に即して、内容を正確に読み取る力

(3) 誤答分析

- 「虎」「狐」を「1 宰相」「3 王様」と解答した本校の生徒の割合は共に 80%後半である。宰相と王様が重要な人物であることはとらえているが、その相関を把握していないと考えられる。
- 「2 江乙」を選択している生徒が共に 1 割前後いる。これは、王様が家臣たちに「わたしよりも宰相をおそれているといううわさを聞いているが、本当なのか。」と尋ねたところに、魏の国の江乙がたとえ話を使って答えるという役割を正確に理解できていないためだと考えられる。

〈指導上の課題〉

- 登場人物の設定、登場人物同士の関係を把握するという文学的な文章を読むにあたっての、基本的な事項が定着していない。
- 「全国学力・学習状況調査」は 3 年生を対象としている。音読・朗読活動をさせていく中で、原文と現代語訳を使って内容をおさえる学習が学年を隔てて継続できていないため、内容を正確に読み取る力が定着していない。

指導改善のポイント

(1) 指導内容・指導方法について

現行の学習指導要領では「読むこと」の配慮事項を当てはめられていた古典の指導が、新学習指導要領では新設された〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕に位置づけられている。今回、我が国の伝統と文化を尊重するという方針から新設されたものである。これは各領域と関連させて指導することが基本とされている。

本校は、現行の学習指導要領の教育課程を実施しているが、上記の方針に則り、「読むこと」の指導を通じて古典の世界に触れていく必要があるだろう。

	学習過程	指導内容・指導方法	言語活動例
1	語句や意味の理解	<ul style="list-style-type: none"> ○ 歴史的かなづかいや古語の意味など、現代語との違いを理解する。 ○ 話や文章の中の語彙について関心を持つ。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> ア 様々な種類の文章を音読したり朗読したりする。 </div>
2	文章の解釈	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「一文要約」をし、内容をつかむ。 ○ 文章の中の時間的、空間的な場面の展開、登場人物の心情や行動、相互関係に注意して読む。 	
3	自分の考えの形成	<ul style="list-style-type: none"> ○ 古人のものの見方や考え方を、現代に生きる自分と比較しながら作品を読み味わい、古典のおもしろさを知る。 ○ 古人のものの見方や考え方を理解し表現することで、会話や文章を知的で豊かにする。 	
4	読書と情報活用	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語便覧や本などで、他の古典を読み、さまざまな古典の世界を知る。 ○ 漢字の成り立ちについて、漢和辞典を使って調 	

		べる。	
--	--	-----	--

(2) 「ことばの教育」との関連

- 音読を通して、古典のリズムのよさを知る。
- 古典に描かれている「今と昔の共通点・相違点」を説明し、そこから自分たちの生き方、在り方について考えたことを文章にしたことを、学びと照らし合わせて振り返る。

単元の目標

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
① 古典のリズムや表現に関心を持ち、進んで音読・暗唱しようとする。 ② 古典にふれることの意味を理解し、古典的なもの見方や感じ方について親しみ、関心を持とうとする。 ③ 日常生活で目にすることの多い故事成語について、理解しようとする。 ④ 漢字の字形のしくみを理解しようとする。	① 文語文の表現の仕方や特徴、現代仮名遣いとの違いに注意して読むことができる。 (C「読むこと」の配慮事項 イ) ② 文章の展開に即して内容をとらえ、要約することができる。 (C「読むこと」 イ) ③ 古典に表れているもの見方・考え方を理解し、自分のもの見方や考え方を広くすることができる。 (C「読むこと」 アオ)	① 今のことばと昔のことばの意味の違いを、文脈上から正確にとらえ、理解できる。 ([言語事項] アイウ) ② 漢字の成り立ちには象形・指事・会意・形声があることを理解できる。 ([言語事項] 漢字に関する事項 アイ)

【言語活動例】

- さまざまな故事を音読し、故事成語の意味を調べるために読むこと。(C読むこと 言語活動例 アイ)

指導と評価の計画

(全12時間 本時は6 / 12)

次	学習内容(時数)	評 価					
		関	読	言	評 価 規 準	評価方法	
一	<ul style="list-style-type: none"> ○ 古典とは何かを知り、「竹取物語」の冒頭文を読む。(3) ・ 昔から語り継がれている「話」を確かめる。 ・ 歴史的仮名遣いが正確に読めるまで冒頭文を音読し、暗唱できるまで読み込む。 ・ 3枚の挿絵の中から冒頭文の挿絵に適しているものを選び、本文中に理由を見つけさせる。 	○	◎	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 古典のリズムや表現に関心を持ち、進んで音読・暗唱しようとしている。 ・ 文語文の表現の仕方や特徴、現代仮名遣いとの違いに注意して読んでいる。 ・ 文章中の語句を手がかりに、古文の内容を考え、挿絵を選んでいる。 ・ 今のことばと昔のことばの意味の違いを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己評価 ・ 観察法 ・ 観察法 ・ ワークシート ・ 自己評価 ・ ワークシート

一	<ul style="list-style-type: none"> ○ 物語の最後の場面を繰り返し読み、内容を理解する。(2) ・五人の貴公子についての解説を読み、流れを理解する。 ・歴史的仮名遣いが正確に読めるまで音読する。 ・現代語訳を参照しながら、登場人物の設定、関係を把握しつつ、一文要約をさせる。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・古典のリズムや表現に関心を持ち、進んで音読している。 ・文語文の表現の仕方や特徴、現代仮名遣いとの違いに注意して読んでいる。 ・文章の展開に即して内容をとらえ、「一文要約」している。 ・今のことばと昔のことばの意味の違いを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価 ・観察法 ・観察法 ・ワークシート ・自己評価 ・ワークシート 	
三	<ul style="list-style-type: none"> ○ 物語の最後の場面から、現代との現代と違う内容、今と変わらぬ内容を具体的に探す。(1) 	○	◎		<ul style="list-style-type: none"> ・古典的なものの見方や感じ方について親しみ、関心を持つようとしている。 ・古典に表れているものの見方・考え方を理解し、自分のものの見方や考え方を広くしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価 ・観察法 ・ワークシート 	
四	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「矛盾」を音読し、意味をとらえる。(1) ・「矛盾」の原文を繰り返し音読し、歴史的仮名遣いに慣れ、漢文特有のリズムを味わう。 ・現代語訳を参照しながら、「矛盾」という故事成語の意味をとらえる。 	○	○	◎	○	<ul style="list-style-type: none"> ・古典のリズムや表現に関心を持ち、進んで音読している。 ・文語文の表現の仕方や特徴、現代仮名遣いとの違いに注意して読んでいる。 ・原文と現代語訳を参照しながら、故事成語の考え方を理解している。 ・「矛盾」の意味を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価 ・観察法 ・観察法 ・ワークシート ・自己評価
五	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「朝三暮四」を音読し、三つの意味をとらえる。(1) 《本時》 ・「朝三暮四」の原文を繰り返し音読し、すらすら読めるようになる。 ・現代語訳を参照しながら、登場人物の設定、関係を把握しつつ、一文要約し、故事から生まれた三つの意味について理解する。 ・本来の意味とは異なる使われ方をされていることばを紹介する。 	○	◎	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・文語文の表現の仕方や特徴、現代仮名遣いとの違いに注意して読んでいる。 ・文章の展開に即して内容をとらえ、「一文要約」している。 ・「朝三暮四」の三つ意味を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察法 ・自己評価 ・観察法 ・ワークシート ・ワークシート ・自己評価
六	<ul style="list-style-type: none"> ○ さまざまな故事成語の由来・意味を調べる。(2) ・国語便覧・図書室を活用し、調べ学習を行う。 ・調べた内容をワークシートにまとめる。(故事・意味・一文要約・短文・四コマ漫画) 	○	◎	○		<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活で目にすることの多い故事成語について、理解しようとしている。 ・文章の展開に即して内容をとらえ、「一文要約」している。 ・故事成語に表れているものの見方・考え方を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察法 ・自己評価 ・ワークシート ・ワークシート
七	<ul style="list-style-type: none"> ○ 漢字や熟語のしくみやはたらきについて理解を深め、学習や生活に生かす。(2) ・「矛」「盾」が象形文字であることを紹介する。 ・漢字の成り立ちについて、容易な問題を解きつつ理解する。 	○		◎		<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の字形のしくみを理解しようとしている。 ・漢字の成り立ちには象形・指事・会意・形声があることを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察法 ・自己評価 ・ワークシート

本時の学習

(1) 本時の目標

「朝三暮四」の意味を知ろう！

(2) 本時の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文語文の表現の仕方や特徴，現代仮名遣いとの違いに注意して読んでいる。 ・ 文章の展開に即して内容をとらえ，「一文要約」している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「朝三暮四」の三つ意味を理解している。

(3) 本時の学習展開

学習活動	指導上の留意事項	評価規準	評価方法
1 前時までの流れを確認する。			
<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時の振り返りをする。 ・ 「矛盾」の原文を音読し，意味を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 教科書を持って読むように指導する。 ■ 読んだ回数を記録する。 		
2 本時の目標と学習の流れを確認する。			
◎本時の目標 「朝三暮四」の意味を知ろう！ ◎学習の流れ [一斉学習] → [グループ学習] → [自己評価]			
<ul style="list-style-type: none"> ○ 他にも故事成語があることを紹介する。本時は「朝三暮四」を読んでいくことを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ ワークシートを配付し，「矛盾」でも出てきた漢文特有の表現に注目させる。 		
3 「朝三暮四」を音読する。			
<ul style="list-style-type: none"> ○ 「朝三暮四」の原文を繰り返し音読し，歴史的仮名遣いに慣れ，漢文特有のリズムを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 教師による範読の後，歴史的仮名遣いの確認する。漢文特有のリズムにを味わう。 ■ T2はC層の支援をする。 ■ 最初は切れ目を意識してゆっくり読み，すらすらと読めるようになるまで繰り返し音読する。読んだ回数を記録する。 	歴史的仮名遣い・漢文特有のリズムを味わいながら音読できている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観察法 ・ 自己評価 ・ 観察法

4 現代語訳を参照しながら、内容をとらえる。			
<p>○ 現代語訳を参照しながら、登場人物の設定、関係を把握しつつ、「一文要約」をし、内容をとらえる。</p> <p>《予想される答え》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・狙が狙公に丸めこまれる話。 ・狙公が狙をうまく騙す話。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「曰く」「誑きて」などの意味をおさえつつ、現代語訳の内容を理解する。 ■ 登場人物の設定、関係を丁寧に把握させ、「一文要約」させる。 ■ T2はC層の支援をする。 	<p>文章の展開に即して内容をとらえ、「一文要約」をしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・ワークシート
5 グループになり、「朝三暮四」という故事成語の意味を考える。			
<p>○ おさえた内容を参考に、「朝三暮四」の意味を考えさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「一文要約」を参考にし、「狙公」「狙」のそれぞれの立場での意味を考えさせる。 ■ 三つ目の意味は、なかなか想像しにくいであろうから、上記の二つの意味が書けたら次に進める。 		
6 「朝三暮四」にふさわしい状況を読み取る。			
<p>○ 日常生活によくある光景を書いた例文を提示し、「朝三暮四」にふさわしいものを選ぶ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ できるだけ身近な例文を提示する。「朝三暮四」にあてはまらないものは、他の故事成語があてはまることを説明する。 	<p>「朝三暮四」の三つ意味を理解している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート
7 学習のまとめ 次時の予告			
<ul style="list-style-type: none"> ○ 「朝三暮四」の本文をもう一度音読する。 ○ 自己評価を行う。 ○ 次回、図書室で調べ学習を行うことを予告する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「矛盾」以外の故事成語にも興味が持てたかどうか、自己評価させる。 		

検 証

検証の方法

本単元を終えたのが11月5日、翌日6日に「第3回到達診断テスト」(※)が実施され、そこで「本時の学習」に関する検証問題を出題した。

<p>問一 傍線1「関へて」を現代仮名づかいに直し、すべてひらがなで書きなさい。</p> <p>問二 傍線2「疲れ果てて」は、どの部分の現代語訳か。原文から抜き出さない。</p> <p>問三 現代語訳を参考にしながら、原文に「」をつけなさい。</p> <p>問四 この故事から「助長」という故事成語が生まれた。意味を書きなさい。</p> <p>問五 時代が流れ、「助長」という言葉の意味が変化しつつある。本来の意味では①「今オンエアされているテレビドラマは非行を助長するような内容だ。」という使われかたをする。しかし、現在では②「『ベストを尽くせ』という先生の発言は、やる気を助長するような一言だった。」という使われかたもする。①と②ではどのように違うのか、説明しなさい。《条件》 二行以上書くこと。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>そうひと そ なえ ちよう 宋人 に其の 苗の 長 ぜざるを うれ これ ぬ ものあ 関へて、 之を 握く者 有り。 ぼうぼうぜん かえ そ ひと い 芒芒然 として 帰り、其の 人に 謂 いは こんにちつか われなえ ひて 曰く、今日 病れたり。予 苗を たす ちよう そ こ 助けて 長 ぜしめたり。と。其の子 はし ゆ これ み なえずなは 趨りて 往きて 之を 視れば、 苗 則 か ち 槁れたり。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【現代語訳】 宋の国の人に、自分の田の苗が伸びないのを心配して苗のしんを引き抜いたものがいた。疲れ果てて家に帰り、家の者に言うには「今日は疲れた。わしは苗の伸びるのを手助けしてやった。」と。その子が走って行ってみると、苗はすっかり枯れていた。</p> </div>	<p>「矛盾」を学習した継志くんが他の故事成語についても勉強しようと思ひ、図書館で本を探し、「助長」という故事成語を調べた。次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。</p>
--	---	--

※「到達診断テスト」とは、2学期制をとっている本校が、定期試験の間に、国数英理社の5教科、年4回実施されるテストのことである。本年度は5月・8月・11月・1月に実施される。

検証結果

検証問題の解答結果は、以下のようになった。

設問	1	2	3	4	5
正答率(%)	77.1	62.9	74.3	40.0	8.6
無解答率	0	0	17.1	8.6	22.9

(問2, 4, 5は部分点を出しているが、誤答扱いとする)

分析・考察

- 問1に関しては、「すべてひらがなで」という条件を読み取らず「閲えて」と解答した生徒が3名いた。また、現代語訳である「心配して」と解答した生徒も3名いた。問題文を最後まで読む姿勢に難がある、基本用語の理解が不十分であるという課題は残るが、繰り返し音読した成果が見られた。
- 問2に関しては「芒芒然として」が正答であるが、「芒芒然」のみ解答した生徒が8名おり、部分点を出した。古文と現代語訳を「正確に」参照する力が定着していないことが分かった。
- 問3に関しては、「矛盾」「朝三暮四」ともに出てきた表現であるが、無解答が17.1%と高い。「原文」の意味が分からなかった、解答の仕方が分からなかったことも考えられるが、基本的な句法が理解できていないことが分かった。
- 問4に関しては、「助ける」という言葉は書けているものの、「妨害する」「邪魔をする」という言葉が書けていない。解答する際に、『一文要約』を行い、意味を考える」という作業ができていないことが推測される。
- 問5に関しては、本来の意味から派生した意味を考えさせる出題であった。問4を正答した生徒も答えることができていない。例文がふさわしくなかったのかもしれない。問4が正しく理解できていない生徒には答えようがない問題でもある。

全体的に見れば、基礎的基本的な問題である問1, 2, 3はほぼ定着しているが、今回「指導改善のポイントとして挙げた「より深い理解」には至っていないことが分かった。後期中間試験が11月27日から実施されるので、復習問題をして類似問題を出題し、定着を図っている予定である。

次の例文のなかで、「朝三暮四」にふさわしい例はどれでしょうか。

() () 昌典さんと由美さんがお菓子をめぐってけんかをしていたところ、哲也くんがそのお菓子を食べてしまった。

() () 佐々木先生に「明日は漢字ノート出さなくていいから、あさって二ページやって提出してください」と言われ、生徒は喜んだ。

() () 克則くんは大学に行って講義を受け、家では寝る間を惜しんで勉強を積み、見事試験に合格した。

() () 弘美さんは書いた作文を何度も何度も見直し、もっとよくなるように書き直した。

() () あゆみさんの体重が一キロやせた。そのあゆみさんが、五〇〇グラムやせた哲也くんを笑っている。

() () 初めて授業をする百合さんはたいそう心配していたが、とても分かりやすいという感想が続出した。

() () 「無料ですよ」と言われ送ってもらったはずのクッキー、そこに請求書が同封されていた。

() () いつもケンカしている二人が同じ班になった。

() () デイリーノートに「いつも勉強を頑張っている」と毎日書いていた。しかし三者懇談で保護者から「ぜんぜん勉強しないんですよ」と言われ、今までだまされていたことに気づいた。

宋に狙公といふ者有り。狙を愛し之を養ひて群を成す。

朝に四にして暮れに三にせん、足るか。」と。

能く狙の意を解し、狙も亦た公の心を得たり。

衆狙皆伏して喜ぶ。

其の家口を損して、狙の欲を充たせり。俄かにして置し。

將に其の食を限らんとす。

衆狙の己に馴れざらんことを恐る。

先ず之を誑きていはく、「若に芋を与ふるに、

朝に三にして暮れに四にせん、足るか。」と。

衆狙皆起ちて怒る。俄かにしていはく、

「若に芋を与ふるに、

【読んだ回数】
「正」の字を書き込もう